

広報資料
(経済同時)

平成 26 年 1 月 30 日
京 都 市
(担当：産業観光局新産業振興室 TEL: 222-3324)
公益財団法人京都高度技術研究所
(担当：産学連携事業部連携支援グループ TEL: 315-6736)

**「京都におけるバイオイノベーション
～身近なバイオ計測：抗体を使った分析技術の実際と新展開～」
(第 11 回バイオ計測・試薬研究会) の開催について**

京都市では、バイオ産業を 21 世紀の京都産業を支える大きな柱と位置付け、「京都バイオシティ構想」に基づき、「京都バイオ産業技術フォーラム」の開催など、産学公連携によるバイオ分野におけるイノベーションの創出と産業振興を図るため、ネットワークの構築や研究開発支援に取り組んできました。

この度、京都市では、京都市産業技術研究所及び、(公財)京都高度技術研究所と連携して京都地域のバイオ関連産業のさらなる発展に向けた研究会を開催しますので、皆様の御参加をお待ちしております。

記

- 1 日 時：平成 26 年 2 月 27 日 (木) 午後 2 時～午後 5 時 45 分 (交流会 午後 6 時～)
- 2 場 所：
【研究会】京都市産業技術研究所 2 階 多目的ホール (京都市下京区中堂寺栗田町 91)
【交流会】京都リサーチパーク 1 号館 2 階 サイエンスセンタークラブ
(京都市下京区中堂寺南町 134)
- 3 定 員：80 名
- 4 参加費：無 料 (交流会に参加される場合は、2 千円を徴収させていただきます。)
- 5 申込締切：定員になり次第締め切らせていただきます。
- 6 主 催：京都市，(公財)京都高度技術研究所，京都バイオ産業技術フォーラム，バイオ計測・試薬研究会
- 7 申込方法：Web (<http://www.astem.or.jp/biocity/>) 申込みフォームでお申し込みください。
- 8 問合せ先：(公財)京都高度技術研究所 産学連携事業部 連携支援グループ (担当 内海)
TEL：075-315-6736 E-mail：biocity@astem.or.jp

抗体を使った分析技術は、妊娠検査薬等の体外診断薬をはじめ、日々の健康診断、衛生環境検査、農薬分析、アレルギー原材料検査など、様々な場面で利用されています。今回の研究会では、高感度分析技術として一般に広く普及するイムノアッセイ技術を紹介するとともに、導入、参入を希望する企業様へのサポートの取組や今後更に発展が期待される先端の研究開発を紹介します。

<プログラム>

- ・ 14 : 00-14 : 05 開会挨拶

京都大学大学院農学研究科 教授／バイオ計測プロジェクト代表 植田 充美氏

<座長> 株式会社メイベル 代表取締役 高木 由美氏

- ・ 14 : 05-14 : 35 「イムノクロマト試薬開発と製造の現状」

ニッポンエンジニアリング株式会社 イムノクロマト部 次長 川村 憲一氏

- ・ 14 : 35-15 : 05 「吸光、蛍光を利用した簡易イムノアッセイリーダについて」

浜松ホトニクス株式会社 電子管事業部 主任部員 小澤 勉氏

- ・ 15 : 05-15 : 35 「残留農薬やカビ毒分析のためのイムノアッセイ開発とその応用」

公益財団法人京都高度技術研究所（京都バイオ計測センター）主幹研究員 三宅 司郎氏

- ・ 15 : 35-16 : 15 休憩・ポスター展示（40分）

<座長> 京都市産業技術研究所 加工技術グループ 研究担当課長補佐 山本 佳宏氏

- ・ 16 : 15-16 : 45 「DNA 連結抗体の作製とバイオテクノロジーへの応用」

京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 生体分子工学部門 助教 山吉 麻子氏

- ・ 16 : 45-17 : 15 「フェノールフタレインとフルオレセインを母核とした

呈色および蛍光色素の開発」

京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 機能分子合成化学研究室 教授 椿 一典氏

- ・ 17 : 15-17 : 45 「理想のイムノアッセイを目指して

—新規蛍光免疫測定素子 Q-body の開発と応用」

東京工業大学 資源化学研究所 プロセスシステム工学部門 教授 上田 宏氏